

西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年7月31日現在

今月の重点活動

■西濃青年農業士会 西濃青年農業士会退任者への感謝状贈呈と交流会開催

7月13日に、西濃青年農業士会では令和4年度末に青年農業士を退任した方への感謝状贈呈式と交流会を開催した。

コロナ禍の影響でここ数年の総会は、書面での決議を行い実質的にほとんど活動ができない状況であった。そこで本年度は、本格的に活動を再開しようと、6月16日に第1回理事会を開催し、対面での交流会を行うことが決まり、今回の交流会を3年振りに行うこととなった。

今後数年のうちに青年農業士会員の退会者が増え、会員数が減少するため、新会員の加入推進や、理事選出の区域割の変更についても話し合われた。

農林事務所では、青年農業士会の今後の活動や新会員加入に向け関係機関と連携しながら支援していく。



【感謝状贈呈の様子】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化に向けた検討が活発に行われている(7/8: 楡俣北部営農組合、7/22: 海松新田営農組合、7/26: 下大樽営農組合)。

7月8日の楡俣北部営農組合では、法人設立に向けたチェックリストにより、配当の種類、設立予定日などが検討された。7月22日の海松新田営農組合は第1回目ということで、今後の方針・進め方などが検討され、下大樽営農組合は司法書士を招聘し、設立のための関係書類一式について検討が行われた。

なお、検討は輪之内町、ぎふアグリチャレンジ支援センター、JAにしみの、農林事務所がチームとなり、法人化に向けた支援を行っている。引き続き農林事務所では、集落営農組織の法人化へ向けて、支援を継続していく。



【検討会の様子】

安全で身近な「西濃の食」づくり

■水稲 養老滝物語生産組合の水稲栽培研修会を開催支援

7月14日、養老滝物語生産組合の通常総会及び水稲栽培研修会が開催された。養老滝物語生産組合は養老町池辺地区で特別栽培米「ハツシモ」の生産に取り組んでいる。

総会前には、各会員のほ場を巡回し、現在の生育状況をお互い確認した。水稲栽培研修会では、農林事務所から「ハツシモ」の生育状況、病害虫の発生状況、及び今後の栽培管理、特にイネカメムシと稲こうじ病対策について説明した。

7月28日には、穂肥前の現地研修会を開催し、生産安定にむけて支援を行う。



【ほ場を確認する生産者】

■小麦 種子生産物審査全量合格

海津市では、小麦「さとのそら」の原種・一般種子の生産を担っている。令和5年産は海津市内の2法人で生産されており、4月10日の出穂期のは場審査、5月18日の糊熟期審査とも、適正には場管理されており採種は場審査では全筆合格していた。

その後6月～7月中旬にかけて小麦種子の生産物審査を実施した結果、原種・一般種子とも全量合格となった。

今後、美濃市の種子センターで精選された後、優良種子として出荷される。

農林事務所では、JAにしみの、岐阜県米麦改良協会等と連携して、引き続き優良種子確保に向けて活動支援を行う。



【発芽試験風景】

西濃の農畜水産物のブランド展開

■冬春トマト 海津ビッグデータ活用推進協議会 事業活動報告会

海津冬春トマトビッグデータ活用推進協議会は、6月29日に令和4年度の事業活動報告会を開催した。

株式会社インフォファームから、令和4年度の分析結果の報告が行われ、収量への影響の大きい環境データや生育データについて説明された。

農林事務所からは、3年間の事業の活動について紹介するとともに、基礎的な管理を土台として、環境データや生育データに応じた環境制御をするよう説明を行った。

農林事務所では、データを活用した技術向上による単収向上に向け、引き続き支援を行っていく。



【報告会の様子】

■花き フランネルフラワー巡回・生産支援

7月11日、切り花フランネルフラワー生産者4名を対象に、農業経営課農業革新支援専門員、農業技術センター研究員と農林事務所担当の3名にて、生産者を巡回し生産支援を行った。

秋の出荷に向けての準備が進められており、切り戻しなどの管理作業はおおむね完了していた。なお一部の生産者に、今後の品質に影響するため、立ちすぎた芽を間引く作業が遅れないよう、アドバイスを行った。また、秋作に向けて新たに株を植えられた生産者2名では、どちらも最後の鉢上げを目前にしており、順調な生産管理が行われていた。

今後は、10月からの出荷に向け、ハダニの発生など特に注意が必要なため、農林事務所として適期の栽培管理が行えるよう支援を続けていく。



【フランネルフラワー
生産ハウスの様子】